

県内各地で読書のイベントが幅広く行われています。爽やかな秋の風を感じながら、本の世界に遊び、想像の翼を広げていければと思います。

平成29年度中学生及び高校生 ビブリオバトル大会の地区大会が開催されています

ビブリオバトルとは、バトルと呼ばれる発表者が、それぞれおすすめの本の魅力を5分間で紹介し合い、参加者全員で、「一番読みたくなった本」(チャンプ本)を投票で決める知的書評ゲームです。本のおもしろさを共有し、読書のきっかけづくりとするための取組で、地区大会を県内6会場で行います。今年度からは、昨年度までの高校生大会に加え、中学生大会も開催しています。

9月23日(土)、地区大会のトップをきって、「中学生ビブリオバトル大館大会」が開催されました。会場となった栗盛記念図書館には、多くの参観者が駆けつけ、県北の2校から参加した5名の中学生バトルの熱弁に耳を傾けました。

また、能代市立図書館では、9月24日(日)の午前に中学生大会、午後から高校生大会が行われました。中学生バトル7名、高校生バトル5名が、それぞれ個性あふれるプレゼンを行い、観客の方々は、バトルの紹介する本の世界に引き込まれている様子でした。



発表を終えて笑顔で記念写真



大館大会で中学生が紹介した本

- ◎『「楽天力」を身に付ける10の法則』著・植村聡
- ・『ブレイブ・ストーリー』著・宮部みゆき
- ・『精霊の守り人』著・上橋菜穂子
- ・『はてしない物語』著・ミヒヤエル・エンデ
- ・『背の目』著・道尾秀介

能代大会で中学生が紹介した本

- ◎『見てる、知ってる、考えてる』著・中島芭旺
- ・『たとえ声にならなくても君への想いを叫ぶ』著・小春りん
- ・『ぼくらの七日間戦争』著・宗田理
- ・『過ぎ去りし王国の城』著・宮部みゆき
- ・『ハリーポッターと賢者の石』著・J. K. ローリング
- ・『ディリュージョン社の提供でお送ります』著・はやみねかおる
- ・『お茶のすすめお気楽「茶道」ガイド』著・川口澄子

能代大会で高校生が紹介した本

- ◎『スマホを落としただけなのに』著・志賀晃
- 『レインボー英和・和英辞典』監修・羽鳥博愛
- ・『それでも僕は夢を見る』著・水野敬也
- ・『悲しみの底で猫が教えてくれたこと』著・瀧森古都
- ・『ジャイロスコープ』著・伊坂幸太郎

◎はチャンプ本、○は準チャンプ本です
(中学生大会はチャンプ本のみ決定)

今後のビブリオバトル大会

地区	校種	実施日	時間	会場
秋田	中学	9月30日(土)	11:00~12:30	あきた文化交流発信センター ふれあーるAKITA
	高校		14:00~15:30	
大仙	中高	9月30日(土)	13:30~16:30	大仙市大曲交流センター
由利本荘	高校	10月1日(日)	13:30~15:00	由利本荘市文化交流館カダーレ
大館	高校	10月14日(土)	13:30~15:00	大館市立栗盛記念図書館
横手	中高	10月14日(土)	13:30~16:30	横手市交流センターY ² ぷらざ

11月3日(金)10時からイオンモール秋田セントラルコートで全県大会開催(中高決戦・一般大会)

インパルスの板倉俊之さんと元祖爆笑王さんがゲスト参加しトークセッションも開催します

「読書絵はがき」 コンクール

本を読んでイメージした場面を、はがき（はがきサイズの画用紙も可）に、絵で表した作品を募集中です。応募対象者は、幼児から中学生まで。秋田県児童会館宛てに10月中旬ぐらいまでにお届けください。郵送でも直接お持ちいただいてもかまいません。奮ってご応募ください。

切り取って宛名にお使いください

〒010-0955

秋田市山王中島町1番2号

秋田県児童会館

「読書絵はがきコンクール」係

11月1日(水)は

「県民読書の日」

県では、県民が読書の意義を理解し、読書に親しむ機会となるよう、毎年、11月1日を「県民読書の日」と定めています。

また、11月1日を含む約2週間を「秋田県読書フェスタ」期間とし、市町村立図書館等の読書関係機関や民間団体等に関連事業の実施について呼び掛けるとともに、事業に関する情報を県民へ提供することで、読書に親しむ気運の一層の醸成を図っています。今年の「秋田県読書フェスタ」は次の期間です。

実りの秋、読書に関する様々なイベントに是非おでかけください。

秋田県読書フェスタ

10月21日(土)～11月5日(日)まで

横手市教育委員会の取組を紹介します

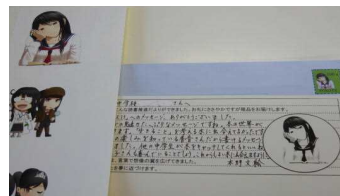
横手市教育委員会では、「横手市子ども読書活動推進計画」に基づいて、読書推進に係る様々な取組を展開しています。

その中の一つ、「おすすめの本100選」は、昨年度からの取組で、今年度も行われています。横手市内の中学生2,000余人が推薦文付きで、同年代の中学生向けに「おすすめの本」を選んでいます。昨年度は、「自分自身の一冊のために」「今日の一冊、青春の百冊に！」として各50冊が紹介されています。

今年度は、「読書推進マスコットキャラクター」の「本野文絵」さんが各校向けの通信等に登場し、読書推進に一役買っています。各学校にあるボックスに、中学生がお薦めの本を自由に投稿できるようにしており、読書通信だよりに掲載された中学生には、本野文絵さんから、お礼のお手紙やシールが届くという、双方のつながりが何とも嬉しい取組です。横手市教育委員会の担当の方は、「中学生一人一人の思いを大切に、市全体の読書推進につなげていきたい」と話していました。



各校設置のボックス



本野文恵さんからの手紙等

生涯学習型認知症予防プログラム「りぷりんと」

北秋田市の森吉コミュニティセンターで、東京都健康長寿医療センターが開発した、60歳以上のシニアを対象とした読み聞かせボランティア養成プログラム「りぷりんと」講座が開催されています。本事業は、県教育委員会が今年度展開している「読書が広がるポップ・ステップ・ジャンプ事業」の関連事業であり、北秋田市教育委員会が主催して行っています。

7月15日(土)の第1回目の講座では、最初に、東京都健康長寿医療センター研究所の藤原佳典研究部長から、「絵本を読んで脳を活性化！読み聞かせによる世代間交流が導く健康長寿」と題して講演をしていただきました。その後行われた、りぷりんと読み聞かせインストラクターの熊谷裕紀子氏の読み聞かせの実演では、『ウェン王子とトラ』の絵本のストーリー展開に固唾を飲んで聞き入る参加者の姿が見られました。

実際の講座は、8月5日(土)から行われており、講座登録者数は28名で、81歳の方も参加されています。6回の講座(10コマ)を経た受講者は、実際に地元で読み聞かせ等の活動を行う予定とのことです。健康寿命をのばすための新たな取組として期待されています。

※「りぷりんと」とは、「復刻版」を意味し、「一度は廃刊になった名作絵本が復刻するのと同じように、シニア世代が自らの人生に再びスポットをあて、その役割を取り戻し、コミュニティの再生のために復刻を遂げてほしい」という願いを込めて命名



絵本を選ぶ受講生

毎回記念写真

～受講を重ねると表情に変化が～